

# 晃の園だより

平成24年12月発行



今年のカレンダーもいよいよ最後の一枚となりました。外を吹く風にも本格的な冬の到来を感じずにはいられない今日この頃です。天気の良い日に、窓から差し込む陽射しの暖かさを身体に受け止めるのが何よりの贅沢になる、そんな季節が到来しました。

四季のある暮らしでは、季節の変わり目に気持ちや感覚をリセットすることができます。冬の後だからこそ春の陽射しの温もりを感じ、夏の後だからこそ秋の風を肌に心地よく感じるができるのではないのでしょうか。ずっと春だったり秋だったりすれば、人の感覚はもっと鈍くなってしまうような気がします。

季節の変わり目、寒くなり始めたこの時期。リセットされたばかりの感覚だからこそ敏感に感じる事が出来るモノ。普段なら見逃してしまいそうなそんなモノを探してみるのも楽しいかもしれません。

## 普段の生活の中で

特別なイベントでない普段の生活の風景です。こういった普段の生活の中での入居者の笑顔こそがとても大事なものに思えます。



午前中天気が良かったのでお庭でソファを干してみました。ぽかぽかと暖かい陽射しに誘われて、やがてそんなソファに入居者が集まってきました。とびっきりの特等席での日向ぼっこ風景でした。



朝起きるのが辛い時期になりましたが、今日は暖かい格好をして入居者と外に出てみました。それでも外の空気は肌寒かったのですが、紅葉の赤に空の蒼…それらをひっくるめた寒さで季節を感じてみました。



ショートステイの利用者様に塗り絵の紙をお渡ししたところ「これは姉様人形だね」とさっそく色を塗り始めました。帯は独自の模様、背景まで綺麗に。慣れた手つきでペンがすすみます。

## ハンドトリートメントで手も心もぽかぽかに

ボランティアの方たちによる『アロマ・ハンドトリートメント』の会が催されました。アロマの香りを楽しみながら、腕や手をマッサージしてくれるというもので、15分くらいをかけてオイルなどを使い手や腕を丹念にマッサージしてくれました。



アロマの香りに包まれてマッサージを受けるという行為は、それだけで気持ちのよいものです。これに楽しい会話が加わることで、入居者のリラックス度は倍増となっていました。付き添いの職員も一緒に並んでマッサージを受けたりと、始終楽しい雰囲気に包まれたハンドトリートメントの会でした。

ここに掲載した写真や記事は、晃の園ホームページの掲示板「旬のネタ」から抜粋したものです。掲示板「旬のネタ」には現場からのニュースが随時掲載されています。ここに掲載しきれなかったニュースや話題もたくさんありますので、ぜひご覧ください。



お問い合わせは  
☎ 054-270-1210  
FAX 054-270-1253



インターネット ホームページ  
ホームページ <http://www.surugakai.net/hikari/>  
Eメール [hikarinosono@surugakai.net](mailto:hikarinosono@surugakai.net)





## 住み慣れた場所へ 秋の里帰り企画

気候の良い秋の季節に、入居者様のご自宅への里帰り企画がいくつか行われました。これらの企画では職員も同行させていただき、入居者様が生活されていた地域や住まいなどを拝見しました。今回は山間地に住まわれていた方たちが対象だったこともあり、紅葉で色づいた山々を眺めながらのんびりと車を走らせるそんな里帰り企画になりました。



久しぶりの自宅で、まず仏壇に手を合わせる。部屋の中、昔のいつもの場所に腰掛ける。そこから見える中や外の眺め。家族の気配。食事と会話。以前は当たり前だった生活の場に身を置いた入居者様の表情は当たり前のことですが、園にいる時とはまた違って見えました。

### 職員にとっても意味のある里がえり

入居者様が、実際に生活されていた場所に行き、空気を感じ、見られていた景色を見る。入居者様との関わりの中で、言葉には出来ないけど何か大切なものに触れることができた、そんな里帰り企画でした。



# 食の企画あれこれ

様々な企画のなかでも『食事もの』は年間を通じて安定して実施されています。とはいうものの、秋という季節にはより充実して行われるというのもまた事実です。この秋に園内で撮りためられた『食に関わる企画』の様々な風景をご覧ください。



## 気持ちを備える防災訓練 中身の濃い机上訓練



11月は社会福祉施設の防災月間でもあり、晃の園においても防災訓練を実施しました。地震発生から二次災害の火災発生を想定した消火訓練や避難訓練は、これまで何度も実施してきました。そこで、今回は趣向を少し変え机上での訓練をじっくりと時間をかけて実施しました。

訓練は3段階です。第一段階は《災害発生から10時間》、第二段階は《災害発生後1日～3日目》、第三段階は《災害発生後4日～1ヶ月》それぞれの段階で職員が個々にどんな役割をもって、どんな資源や強みを活かし、どんな問題を抱えながら対応していくかを具体的に想定・考察し、判断し続けることが求められました。



今までは「わからないこと」「イメージできないこと」があれば、そこで思考はストップしていました。でも実際に災害にみまわれた時にそんなことは言うてはいられません。誰かが判断をして指示を出し、それぞれの場面で動き続けなければならないことばかりです。現実と想像の違いはありますが、今回の訓練ではそういった切迫性を実感することが出来たのが大きな成果でした。訓練の進行においては改善する余地は多々あります。けれども今後の訓練にむけて、大きな手ごたえを感じることができた今回の防災訓練でした。